

練習問題 A

(教科書 p.160)

1 次の関数を微分せよ。

$$(1) \quad y = \frac{x^2+2}{x-1}$$

$$(2) \quad y = \frac{x}{x+\sqrt{1+x^2}}$$

$$(3) \quad y = \frac{\sin x - \cos x}{\sin x + \cos x}$$

$$(4) \quad y = e^{-\sin x}$$

$$(5) \quad y = xe^{\frac{1}{x}}$$

$$(6) \quad y = \log|\cos x|$$

2 関数  $f(x)$  が  $x = a$  で微分可能であるとき、 $\lim_{h \rightarrow 0} \frac{f(a+3h) - f(a)}{h}$  を  $f'(a)$  を用いて表せ。

3  $x, y$  が次の式を満たすとき、 $\frac{dy}{dx}$  を  $x, y$  を用いて表せ。

(1)  $\sqrt{x} + \sqrt{y} = 1$

(2)  $\sqrt[3]{x^2} + \sqrt[3]{y^2} = 1$

4 方程式  $xy - 2x + y = 0$  で定められる  $x$  の関数  $y$  の導関数は

$$\frac{dy}{dx} = -\frac{y-2}{x+1}$$

となることを示せ。

5 サイクロイド  $x = a(\theta - \sin \theta)$ ,  $y = a(1 - \cos \theta)$  について、 $\frac{dy}{dx}$  を  $\theta$  の式で表せ。

6 次の関数の第  $n$  次導関数を求めよ。

(1)  $y = \log \frac{1}{5-x}$

(2)  $y = \sin x + \cos x$

7 対数微分法により、関数  $y = x^x$  ( $x > 0$ ) を微分せよ。

練習問題B

(教科書 p.161)

$$1 + x + x^2 + \dots + x^n = \frac{x^{n+1} - 1}{x - 1}$$

このことを利用して、次の和を求めよ。

(1)  $1 + 2x + 3x^2 + \dots + nx^{n-1}$

8 次の極限值を求めよ。ただし、 $\lim_{t \rightarrow 0} (1 + t)^{\frac{1}{t}} = e$  を用いてよい。

(1)  $\lim_{x \rightarrow 0} (1 - x)^{\frac{1}{x}}$

(2)  $\lim_{x \rightarrow \infty} \left(1 + \frac{2}{x}\right)^x$

(2)  $1 + \frac{2}{2} + \frac{3}{2^2} + \dots + \frac{n}{2^{n-1}}$

9 関数  $f(x) = \sqrt{x+1}$  について、次の問に答えよ。

(1) 微分係数  $f'(0)$  を求めよ。

(2)  $g(x) = f(f(x))$  とするとき、微分係数  $g'(0)$  を求めよ。

10 自然数  $n$  に対して、 $x \neq 1$  のとき、次の式が成り立つ。

1 1  $x, y$  が次の式を満たすとき,  $\frac{dy}{dx}$  を求めよ。

$$x = \tan y \quad \left(-\frac{\pi}{2} < y < \frac{\pi}{2}\right)$$

1 2 関数  $y = ae^{-x} \sin 2x + be^{-x} \cos 2x$  の導関数が

$$y' = e^{-x} \cos 2x$$

となるように, 定数  $a, b$  の値を定めよ。

1 3 次の場合について,  $\frac{dy}{dx}$  を媒介変数の関数として表せ。

(1)  $x = a \cos^3 \theta, y = a \sin^3 \theta$

(2)  $x = \frac{3t}{1+t^3}, y = \frac{3t^2}{1+t^3}$

$n$  次整式  $f(x)$  は  $x - \alpha$  の整式として

$$f(x) = f(\alpha) + f'(\alpha)(x - \alpha) + \frac{1}{2!}f''(\alpha)(x - \alpha)^2 + \frac{1}{3!}f'''(\alpha)(x - \alpha)^3 + \dots + \frac{1}{n!}f^{(n)}(\alpha)(x - \alpha)^n \quad \dots\dots⑤$$

と表される。

問1 高次導関数を用いて、 $x^4 + x^2 + 1$  を  $x - 2$  の整式で表せ。

さらに、 $f(x)$  が整式でないときでも、指数関数  $e^x$  や三角関数  $\sin x$ ,  $\cos x$  などの関数に対しては、⑤を拡張して、次のような無限級数で表されることが知られている。

$$f(x) = f(\alpha) + f'(\alpha)(x - \alpha) + \frac{1}{2!}f''(\alpha)(x - \alpha)^2 + \frac{1}{3!}f'''(\alpha)(x - \alpha)^3 + \dots + \frac{1}{n!}f^{(n)}(\alpha)(x - \alpha)^n + \dots$$

この無限級数を関数  $f(x)$  の (⑦) という。